



みずみどり

2015年 7月15日 第109号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

観察会 バッタ広場の「虫しらべ」

- 日時：8月22日（土）10時～11時30分 雨の場合は29日（土）
はっきりしないときは 赤塚公園サービスセンター（3938-5715）へ
- 集合場所：板橋美術館前
- 持ってくるもの：ポリ袋、飲み物、帽子、草むらに入る服装（長袖、長ズボンがよい）、蚊もいるので必要なら虫よけ薬。
あれば昆虫網や虫かご、図鑑（なくてもよい）
- 申し込み・問い合わせ：いたばし水と緑の会事務局 瀬田：3969-7124
- 定員20名程度 ・小学3年生以下の方は保護者ご同伴ください。

主催：いたばし水と緑の会・赤塚公園サービスセンター

赤塚城址にあるバッタ広場はバッタやカマキリ、キリギリスなど、生き物たちのための草原です。ここにどんな生き物がいるか、毎年調べています。みんなで生き物をそっとつかまえて、ポリ袋などに入れ、それをみんなで観察して、種類を調べてから放します。暑い夏は虫たちが最高に元気になる季節、生き物の世界に興味のある方、ご参加下さい。



湧水が流入した赤塚トンボ池

トンボ池に関心を持って見守って下さったみなさま、お待たせしました。不動の滝の向かい(大仏下)にある水源から池までの長い間のどこかで漏水があり、その修理に時間がかかり、やっと工事が終って、6月はじめ池に湧水が流れ込み始めました。が、湧き口ここまで来る間、200m以上あり、今でも道路下で漏水があるようです。

湧水は湧水水路の上流からパイプで美術館入口付近まで来て(写真左下)、ここから池まで地面

流れます。つまり、ここから自然の水辺となります。ちょっと作為っぽくて気が引けますが・・・
水路と池の構造は4ページの図を見てください。



6月20日、ビオトープ作りの専門家、水研クリエイイト(株)の尾坂尚之さん達により、まず池の高低差の測量し、トンボ池の形を相談して決め、尾坂さんの指導で、よりよいトンボ池づくりがはじまりました。



フェンス際の草を刈り、外からよく見える場所に水面が開けた池を棚田のように二つ作りました。小さな池をつなげることによって、一つ一つの池が小さくなって管理しやすくなるそうです。また、水が高いところから低いところまで段々に流れ落ちて、よどまないようになります。



早速、オオシオカラトンボが来て、自分の縄張りだよ、と見張っています。

外からは見えませんが、山側の草の茂みの中にはヒタヒタと水がしみてきて、ほどよい湿地が出来ました（写真）。



パイプから出てくる湧水の量ですが、5月27日、初めて出てきたときは3.5リットル/分でした。環境課の調査では昨年湧水の出口（池田園の裏）で13リットル/分程度は出ていたというので、道路下を通るパイプからの漏水が多いと思われます。道路下の土が水で飽和状態に近くなったためか、6月には7.2リットル/分に増えました。水は休まず流入し、1日に約10トン、6月の総流入湧水量は、なんと300トン以上。しかし、池の水位がほとんど同じなのは、池のあちこちの隙間から漏水していることと、繁茂した水草が水を消費しているためでしょう。

池底の隙間はもしかすると目詰まりして、今後あまり漏水しなくなるかもしれませんが、今は大変都合のよい水収支になっています。



さて、7月に入り梅雨になって、流入する湧き水量は10リットル／分が増え、周りに降った雨も泥水となって流れこむので、どんどん水かさが増し、ビオトープは氾濫状態になりました（写真左 7月3日）。

しかし、その雨も止むと、池はまた透き通った水に戻り、水位も下がりました。

写真右は、7月5日、雨の後、橋の右奥から撮影したもの。中央奥が湧水の流入口。



この池がどうなるのか、まだわかりません。よく池を見に来られる方々は、「以前は水がいっぱいあった」と言い、満々と水をたたえ、魚の姿が見え、カワセミが来る池がよいとされます。

トンボ池は、最初は深いところでは80cmもある深いすり鉢状の池で、水位も今よりかなり高く、オーバーフロー水が水路に戻る設計になっていました。しかし、防水シートの継ぎ目等からの漏水でオーバーフロー水位にはとても達しない状態です。

水が入る6月以前は、トンボ池は水のない空き地で草がぼうぼうと茂り、カマキリやクモがたくさんいる生き物の住処になっていました。水面が小さくなくても、浅くても、来園者の皆さんは、湧水が流れ込む草ぼうぼうの生き物の生息空間をきっと好きになり、優しい気持ちで見守って下さると思います。

課題もあります。①湧き水なので水量をコントロールできない。のに、②水の出口がない、ことです。とくに橋の右側には周囲の雨水も流れ込み、水がよどんでプランクトンが発生しやすくなります。これから検討していくことになります。関心のある方はどうぞこの取り組みに参加してください（坂本 郁子）。

環境なんでも見本市で出展

6月、27日（土）、28日（日）板橋区のグリーンホールで環境なんでも見本市が開催され、いたばし水と緑の会も出展しました。自然をテーマに活動する会としては、この季節にまちなか



でも見られる動植物の写真を並べて、来場者に最近見たものに赤いシールを貼ってもらうことにしました。

写真はツバメ、スズメ、ヒヨドリや「超」人気のカルガモ親子等の野鳥、トカゲ、ヒキガエル、カタツムリ等、またヒメジョオン、ヘビイチゴ、エノコログサなどのいわゆる雑草、それにチョウチョ、芋虫、毛虫、トンボ、ハチやクモなど何でもあり。自然が好きな人たちが、自然と立ち止まってくれました。「これ知ってる、〇〇ですね」とか「これは何ですか」と聞かれたり、「今年もツバメを見ましたよ、よく行く千石に毎年ツバメが巣を作っているんですよ」と教えてもらったり。また、写真を見ながら「トカゲ」か「カナヘビ」か、などの見分け方を確認したりして、私たちも楽しめました。名前を知っているかどうかは問いませんが、じっくり見ること、そして名前がわかると、人の名前がわかったときと同じように親しみが増します。

私たちの宝物も展示しました。モグラの剥製（赤塚公園で見つけたモグラの死骸を剥製にもらったもの—18000円もした）、長さ150cmもあるヘビの完全な抜け殻、カマキリ、アカスジキンカメムシの脱皮した抜け殻等、平田さんの庭のビオトープに発生した水生生物。それに昨年秋に日暮台公園で採取したコナラとスダジイの発芽した苗です。

板橋第2小学校の展示

環境なんでも見本市に毎年どこかの小中学校の展示があり、環境教育の成果を発表していて頼もしく見せてもらっていますが、緑のカーテンを育てる活動が多いようです。最近クールダウン効果が、温度差がわかる写真で発表され、その技術に驚いてしまいます。

今回の板橋第2小学校の展示は、緑のカーテンもありましたが、生物多様性についてのパネルもあり、「雑草を抜かない」とか「アリやダンゴムシも殺さないようにしましょう」など、訴えていました。同じテーマで活動している若い仲間の発表を見て大変うれしかったです。



バッタ広場に生き物の掲示板

バッタ広場の生き物を紹介するパネルが新しくなりました（写真右）。広場周りの壊れた柵も、新しい杭とネットで修理していただきました。



観察と活動の記録

5月16日(土) バッタ広場作業

実生木切り詰めとササカリ、セイタカアワダチソウ抜き取り

カマキリ幼体、サビキコリ、ホソハリカメムシ、ウズラカメムシ、ハムシの仲間?(2種)、テントウムシ、ハナバチの仲間、コフキゾウムシ、ツマグロオオヨコバイ、クヌギ虫こぶ、アブ捕食

5月23日(土) 成増1丁目向新田の森観察と手入れ(ササ刈り、トキワツユクサ抜き取り)

木が茂って林床のササの生育は旺盛ではない。日照も弱いのにエノキ実生が最大1.4m程に生育していた。マンション建設地から林内に移植したシラヤマギク、ニガイチゴも元気。林内から林縁に再移植したツリガネニンジンのはかるうじて生きていた。

終ってから白子の湧水を見に行った。川越街道切り通しにあったいくつかの湧水はコンクリートブロック等に覆われて、ほとんど見えない状態だった。湧水タンクのあった民家も新しい住宅にかわって姿を消し、熊野神社裏の池も立ち入り禁止になっていた。ショック。

5月27日(水) トンボ池の湧水水路の通水に立ち会う。湧水パイプからの吐出量は非常に少ない(3.6リットル/分)水路にヒバカリ幼体。

トンボ池は水が入らなくなって日当たりのよい側には、生い茂ったウキヤガラ、アシカキ、ミコシガヤ、メリケンガヤツリ等が覆って池一面に生育し、クモなどが多数見られ、城址の斜面樹林と一体となって、これはこれで良好な生き物の環境となっている。

6月6日(土) 梅雨に入って降雨があり、湧水量は倍に増えた(7.2リットル/分)。

ミニトンボ池は水も澄み、ザリガニは見当たらない。

6月13日(土) バッタ広場植生調査

南北ライン上の植物を記録。生い茂った状況でクズが増えている。

カマキリ幼体多、ショウリョウバッタ幼体数匹、

トンボ池にセスジスズメ幼虫、ミニトンボ池でザリガニ1匹(今のところ多くない)。

6月20日(土) トンボ池整備作業

梅雨に入って雨が多くなったが水路の湧水量は7.2リットル/分で多くない(水源では20リットル/分位あるはずなので、道路下の漏水が大きいようだ)。水研クリエイト尾坂さん達が測量したビオトープのレベルをもとに、池の構造を検討し、二つの池をつくった。

干上がった池には植物が繁茂し、昆虫類も多数見られた(カマキリ、クモ、マルカメムシ、ウズラカメムシ、ゴモクムシ、ハンミョウ、ナナホシテントウ、ナナフシ等)。

6月27日(土)、28日(日) 環境何でも見本市に出展

活動のお知らせ

運営委員会：7月25日（土）、8月22日（土） 12:30～13:30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：9月19日（土） 12:30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

活動予定いろいろ

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、大仏下ミニトンボ池、バッタ広場）の観察と環境整備
いずれもトンボ池前集合。

様子を見ながら手入れ内容を検討します。作業は1時間程度として、引き続き周辺や他のビオトープの観察をします。関心のある方は事務局にご連絡下さい。

7月22日（土）10:00～11:00 11:00～12:00 観察会

8月15日（土）10:00～11:00 11:00～12:00 観察会

9月19日（土）10:00～11:00 11:00～12:00 観察会

集合はいずれも赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）

2 日暮台公園樹林地の観察プラスα

（樹林地内の推移と林縁植物を観察、様子を見て林縁の草取りなど）

8月1日（土）、9月5日（土）いずれも10:00～11:30

日暮台公園前集合

3 バッタ広場観察会 バッタ広場の生き物しらべ（詳細は表紙参照）

8月22日（土）10:00～11:30

板橋区立美術館前集合

●ビオトープ管理のボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。活動の内容は、身近な動植物を観察しながら、大きくなった木を切ったり、セイタカアワダチソウなどの外来植物や生育旺盛なササを刈り取ったり等々です。一緒にやりませんか。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。